



権

松中

CGraSS共同代表 貴堂 嘉之

ジェンダー社会科学研究センター (CGraSS) は、 2007年から推進してきた全学的なジェンダー教育プログ ラム(GenEP)のフォローアップを行う新プログラムと して、「一橋プライドフォーラム」を開始しました。こ のプログラムは、一橋大学の卒業生有志団体Pride Bridge(会長 松中権)からの寄付金によって運営される もので、(1)ジェンダー/セクシュアリティをより深く 学びたい学生のためのリソースセンターの設置・運営、

(2) LGBTQフレンドリーな教育環境整備のための共同 研究プロジェクトの実施を目指しています。

本年は、「一橋プライドフォーラム」のキックオフ・ イベントとして、まず公開シンポジウム「大学における セクシュアルマイノリティ学生の権利保障」(2019年9 月18日 午後17:30~20:00 兼松講堂)を開催しまし た。本学と連携協定を結ぶ国立市の永見理夫市長が来賓 挨拶を行い、Pride Bridge会長の松中権さんとCGraSS共 同代表の貴堂嘉之が協定調印式を行いました。基調講演 は松中権が「LGBTO学生の置かれた状況と大学による支 援」と題して行い、本学でおきたアウティング事件を起 点に本プログラムがいまなぜ必要かを語りました。パネ ルディスカッション「大学は性的マイノリティの権利保 障に何ができるか一各界から学ぶ」では、井上久美枝さ ん、河野禎之さん、内藤忍さん、吉田徳史さん、真鍋康 正さんが登壇し、各界での特色ある取組が紹介されまし

また、キックオフ・イベントと同日に、プライドブ リッジ寄附講義として新設科目「ジェンダー/セクシュア リティとライフデザイン」(2019年秋冬学期 水曜・3限)がスタートしました。初回授業から教室にはあふれ んばかりの学生が集まり、初年度から履修者482名を集め る大盛況の授業となりました。この科目は、セクシュア リティやジェンダーをめぐる不平等・不寛容・不公正な状 況を「自分事」として捉え、自らの生き方や働き方、社 会との関わり方について実践的に考えたい学生たちのた めのもので、毎回ゲストスピーカーを招聘し、企業・ NPO・他大学等における先進的な取り組み、法制度改正 の動向、卒業生のライフコース、自治体や労組等の取り 組みなどについてお話しいただきました。



『PRIDE BRIDGE』は、「一橋大学の在校生と卒業生 をつなぎ、LGBTQを含むすべての学生、教職員が、自分 らしくプライドをもって学べる、働ける、生きていけ る、一橋大学をつくる架け橋に」という想いのもと、 2019年2月27日に有志で設立した団体です。東京地裁で 一橋アウティング事件の判決公判が開かれた日に、この 団体を立ち上げた理由は、ふたつありました。

ひとつは、過去への反省です。私自身、2000年秋に卒 業してから、国立のキャンパスを訪れることは、ほぼあ りませんでした。もちろん楽しい思い出もありました が、同時に、シスヘテロ(シスジェンダー)が当たり前 の空間で、引きつった笑顔をつくるしかなかった自分の 姿や、仲間といるはずなのに何処にも居場所がなく、当 時感じていた乾いた孤独感や記憶が蘇り全身を襲ってき そうで、正直避けていました。NPOを立ち上げ、会社で カミングアウトしたあとも同じでした。2016年夏の報道 以降、「もし、なにか母校でアクションを起こせていた ら」と、ずっと自責の念を抱えていて、その気持ちは、 当事者であるなし関わらず、学生・教職員・卒業生問わ ず、本当に多くの方が持たれてきたものだと思っていま す。過去は変えられませんが、「自分にできたかもしれ ないこと」を想像する力がたくさん集まれば、現在を動 かすことができるはずと考えました。結果、約130人の一 橋卒業生からの賛同と寄付をいただき、『CGraSS』との 協働事業「一橋プライドフォーラム」を立ち上げるに至 りました。ご協力いただいた皆さんに、メンバーを代表 して御礼を申し上げます。

もうひとつの理由は、未来への決意です。亡くなった 学生さんは、最期まで「自分らしく生きる」ことへの希 望を持ち続けていたと思います。それは、これから、日本全国の学びの場で時間を過ごす、すべての人たちが持 つ希望でもあります。そんなキャンパスづくりの参考と なるような取り組みを、この一橋大学から始めていきた いと思っています。昨年『一橋大学学生サークルLGBTQ + Bridge Network』が立ち上がり、3者での歩みが手探 りでスタートしました。心から感謝しています。在校 生、教職員、卒業生、地域の方々、そして大学。それぞ れが違う立場にあり、協働するというアクション自体も 労力を要します。時に摩擦もあります。ですが、違う思 いや経験を持っているからこそ見えてくる課題や、生ま れるアイデアがあると信じています。その試行錯誤のプ ロセスが、多様性とは何か、包摂性とは何かの学びとな り、全国にシェアできる「架け橋」となることを願って います。

一橋大学を、ひとりひとりにとっての、安心できる居 場所に。そして、過去から未来、すべての関係者、みん なにとっての、いろんな形でずっと関わっていきたいと 思える居場所に。ぜひ、ごいっしょに。

一橋プライドフォーラムは、一橋大学大学院社会学研究科に設置されているジェンダー社会科学研究センター(CGraSS) と一橋大学卒業生有志団体Pride Bridgeとの共同事業です。





△第10回授業でお越しいただいたくにたち男女平等参画ステーションの方々とPride Bridge副会長川口遼さん(右)

Endowed Lecture Coordinated by CGraSS

一橋プライドフォーラムの初年度 の活動の柱となったのは、社会学部 の2019年度新規科目として秋冬学 期に開講された「ジェンダー/セク シュアリティとライフデザイン(プ ライドブリッジ寄附講義)」です。 シラバスには次のように書きまし

「セクシュアリティやジェンダーを めぐる不平等・不寛容・不公正な状 況を『自分ごと』として捉え、自ら の生き方や働き方、社会との関わり 方について実践的に考えたい学生の ための科目です。一橋大学卒業生有 志団体『Pride Bridge』からの寄附 金によって開講される寄附講義で す。『性の多様性』をめぐる現代社 会の状況を理解し、大学で学ぶジェ ンダーやセクシュアリティについて の知見を生涯にわたる社会生活や職 業生活にいかに活かしていくか、社 会環境にいかにして働きかけるかを 実践的に考えます。毎回ゲストス ピーカーを招聘し、企業・NPO・ 他大学等における先進的な取り組 み、法制度改正の動向、卒業生のラ イフコース、自治体や労組等の取り 組みなどについてお話しいただきま す。学期の最後には授業の成果をま とめ、学生によるワークショップや プロジェクトの実施を検討しま す。」

9月18日の初回授業当日は、本 館28番教室に続々と集まる学生の あまりの多さに、プライドフォーラ ムのスタッフ一同、感慨無量となり ました。水曜の午後はサークル等の 活動にあてられることが多いので、 受講者はおそらく40~50名ほどだ ろうと予想していたのですが、履修 登録者は482名にのぼり、毎回熱心 に受講する学生たちの姿に私たちも 大いに励まされました。当初は複数 の教室を遠隔システムで中継し、国 会議員の方々を招いた授業では兼松 講堂を使用しましたが、そのたびに 職員の方々の協力的なサポートに助 けられました。

また、授業を通じて一橋プライド フォーラムの運営に参加する学生を 募ったところ、多くの学生が関心を 示してくれたことも私たちにとって は大変うれしいことでした。ここか ら学生サークル「LGBTQ+ Bridge Network」が誕生し、2016年から 学内で活動していた当事者学生サー クル「ORB」と合流することになっ たわけですが、ここに集う学生たち のさまざまなアイデアによって、寄 附講義以外の一橋プライドフォーラ ムの活動の方向性も徐々に定まりつ つあります。2020年度には学生主 体のイベントやプロジェクトがいく つか始動し、寄附講義との相乗効果 がさらに高まることが期待されま

ところで、毎回の寄附講義には、 履修者から多くのコメントが寄せら れました。ゲストスピーカーの講話 に心を揺さぶられ、これまでの自身 の言動を真摯に振り返ったり、周囲 の人々が発する細かなサインに気づ いたりする学生も多くいましたし、 誰にも言えずにいたことを言語化し て講師に伝えてくれる学生も少なく ありませんでした。周囲の学生に履 修を勧めたいという声や、「できる なら全学部の必修科目に」といった 声も多く寄せられました。「誰もが 安心・安全に生きられる社会」をつ くるための第一歩として、この講義 は大きな成果を上げたと言ってよい と思います。

次年度以降も充実した講義を展開 できますよう、引き続きみなさまの ご協力をいただけましたら幸いで す。

2019年度 ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン (プライドブリッジ寄附講義)

「コーディネーター:神谷悠一(プライドブ リッジ副会長)

担当教員:太田美幸(社会学研究科教授・ CGraSS)、柘植道子(保健センター特任 准教授·CGraSS)

第1回「性の多様性」をめぐる現代社会の 状況

講師:川口遼さん (プライドブリッジ副会長)

第2回 大学で学ぶ

講師:一橋大学大学院生のみなさん(『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』著者グループ)

第3回 社会で活動する

講師:松中権さん (プライドブリッジ会長/なくそう ! SOGIハラ実行委員長)

第4回 政治を変える

講師:国会議員のみなさん (LGBTに関する課題を

第5回 仲間とつながる

講師:ソニア・デールさん(一橋大学元教員)

第6回 司法を変える

講師:中川重徳さん(諏訪の森法律事務所・府中青年 の家裁判原告代理人)

第7回 制度を問い直す

講師:大江千束さん (LOUD代表/同性婚訴訟東京原

第8回 家族を支える

講師:小林りょう子さん (ハートをつなごう学校)

第9回 学生として動く

講師:薬師実芳さん・杉山文野さん・神谷 悠一さん (早稲田大学金井景子研究室関係者)

第10回 地域で動く

講師:木山直子さん (くにたち男女平等参画ステーシ ョン)

第11回 企業で働く

講師:井上道博さん (株式会社丸井グループ)

第12回 働く人を支える

講師:井上久美恵さん (連合)・本多則惠さ ん (厚生労働省)

第13回 全体討議

ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン (プライドブリッジ寄附講義)はプライドブリッジからの寄附金により 運営される 「一橋プライドフォーラム」の活動の一部として開講されるものです。

Pride Forum Resource Center

>Pride Forum Resource Center

Pride Forum Resource Centerは ジェンダー・セクシュアリティをよ り深く学びたい学生のためのリソー スセンターとして一橋大学西キャン パス第二研究館にあります。大学内 で困難を抱えているLGBTQ学生に とってのセーフティスペースとして の活用だけでなく、学外のLGBTQ支 援の状況や学内の制度を知りたい学 生が資料を閲覧できる場所、ジェン ダー・セクシュアリティに単純に興 味がある、あるいはジェンダー・セ クシュアリティに関してレポートを 書きたい学生に対し入門書や学術書 を提供する場として今後活用してい く予定です。LGBTQ学生が気兼ねな く使えるよう安全性の確保には細心 の注意を払っています。

オープン後は学生が中心となり CGraSS教員やPride Bridgeと協働で イベント実施を検討して行きます。

▽学生の初年度内部研修を行いました!

現在参加している学生の多くが昨年の寄 附講義に参加しジェンダー・セクシュアリ ティにもともと興味関心を持っていた学生 です。その参加学生に対して、Pride Forum Resource Centerに関わる者として 基本的な知識と適切な振る舞いを身につけ ることを目的に、初年度の内部研修を行い ました。

性の多様性の理解やフォビアの価値観や偏見の把握などをワークショップを通じて学ぶだけでなく、Allyのアイデンティティ発達やホモフォビア尺度など普段学生が漠然と認識していた概念を言語化させ自身で咀嚼し反芻する良い機会となりました。

参加学生からは「発言しやすい空気づくりが良かった」や「セクシュアリティをほぼ性的指向と結びつけていたが、正しい理解ができて良い機会だった」など意見をいただきました。内部研修を重ね、Pride Forum Resource Centerの活動に還元させていきます。

▷設備充実しました!

オープンに向け、着々と設備が揃ってきています。備品では、北欧家具を販売しているIKEA様からPride Bridgeの松中権会長を介して家具を多数ご寄付いただきました。その他にも森千香子先生ソニア・デール先生からはホワイトボードやケトル、クィア理論に関する本をご寄付いただきました。

新型コロナウィルスによる入校 制限が緩和され、学生の通学が再 開した後、グラウンドオープンを 予定しています。

一橋プライドフォーラムは引き 続き、ジェンダー・セクシュアリ ティ関連の図書の寄付を募集して おります。ご寄付される方は、奥 付記載のメールアドレスにその旨 をお送りください。







New Resources

Pride Forum Resource Centerに新しい資料を追加しました。

① <u>「一橋大学学内支援について」</u> > >一橋大学内のハラスメント相談 に関する情報をまとめました

②「大学周辺の支援体制について~ 他大学の学生に向けて~」

>>インカレや大学連携等で入校す る他大学学生に向けた情報を公開し ました

③ 国立・立川・国分寺市相談窓口 >>国立市男女平等参画ステーション内のパラソルを紹介を中心に、立川市、国分寺市の支援情報を集約しています。

Pride Forum Resource Centerリソースリスト▲

○提供資料増やしています!

困難を抱えているLGBTQ学生のための資料を着々と準備しています。2019年度は LGBTQ+ Bridge Networkを中心にゼロから準備し始めました。2019年度はハラスメント被害に対してどのような学外支

た。2019年度はハラスメント 被害に対してどのような学外支 援や学内支援・制度があるかを 整理しながら資料を作成しまし

学内支援ではハラスメント相 談室、学生相談室の情報をまと めています。学内でハラスメン トが発生した場合の相談先はハ ラスメント相談室となります。 困難を抱えている学生には親身 になって話を聞いてくれる有意 識者がいる学外支援や、自ら行 動できるように学内の制度を 知っておくことも有用的です。 学内の制度をまとめている資料 では、授業・ゼミ及び研究室で ハラスメントを受けたケースの ものを現在まとめています (2020年度公開予定)。その 他、寮でのハラスメントに関す る対応策等も情報を集約してい ます。

ハラスメントが起こることを 未然に防ぐだけでなく、ハラス メントが起こったのちにどう行 動すべきか、実用性のある資料 を提供できるよう努めて行きま す。

Pride Forum Resource Centerla 現時点では相談施設としてではな く、資料の閲覧室としての利用及 びセーフティスペースとしての利 用を目的としています。自由に閲 覧できる資料としては、LGBTや ジェンダー学に関する蔵書を多数 用意している他、現在では関東の 各自治体やNPO法人が実施してい るSOGI(電話)相談サービスやコ ミュニティスペース、一橋大学内 の諸制度をまとめた資料を提供し ています。資料をご覧になる際 は、お求めの資料を事前にホーム ページでご確認いただいてメール または直接来室しご請求頂くか、 「こういった資料や本を見たい| といったように担当学生まで資料 の内容お申し付けください。その 際に相談内容や自分がいる困難に ついて話して頂く必要はありませ ん。また、もちろん利用者の名前 を控えることもありませんので、 匿名での利用が可能です。

相談施設としての運用を行わない理由としては資金的理由とセカンドハラスメント発生を回避する

ための2つあります。まず資金的 理由ですが、Pride Forum Resource Centerの運営資金は Pride Bridgeが募集するOBOGの 方々による寄附金によって運営さ れているためその資金は安定的な ものではなく、SOGI専門の相談員 の方に駐在して頂くことはできま せん。そのため、現時点では LGBTQ+ Bridge Networkの学生メ ンバーとCGraSSの教員による開室 を予定しています。また「相談」 として学生メンバーが対応した場 合、懸念されるのがセカンドハラ スメントの問題です。なんら責任 を持たない何気ない一言により利 用者の人権を侵害することのない ようにという判断の元、このよう な運びになりました。

Pride Forum Resource Centerをご利用の際は、ぜひ学生とゆっくり談話したり、本や資料を閲覧する部屋としての利用をお願いいたします。

資料のリストはLGBTQ+ Bridge Networkのホームページからご覧ください(7ページに掲載)。





萩上 直子著 『彼らが本気で編 むときは、』

配架:SX-tech-020

優しさに満ちたトランスジェンダーのリンコと彼女の心の美しさに惹かれすべてを受け入れる恋人のマキオ。そんなカップルの前に現れた愛を知らない孤独な少女トモ。桜の季節に出会った3人がそれぞれの幸せを見つけるまでの心温まる60日間を描いた物語です。

トランスジェスターの方々の想いや、 色々な環境の中で それでも確実に成長し ていく子どもの姿、それを取り巻く様々 な人たちの彩豊かな多様な生き方・考え 方を如実に表した作品になっています。

この物語を読んで、少しでも理解が深まれば、、と切に願います。



Pride Forum Resource Center蔵書リストA



PRIDE Books



LGBT法連合会著 『「**LGBT」差別禁** 止の法制度って何だ ろう?』

かもがわ出版 配架:SX-manu-006

Pride Bridgeの副会長でもある神谷 悠ーさんが事務局長として活動している LGBT法連合会が出版した 1 冊です。

話題の渋谷区長・世田谷区長を始め、代表的な自治体ごとの取り組みにフォーカスが当てられ、出版当時としては最先端のLGBTに関する行政活動が紹介されています。

また、実際にLGBTの当事者が経験されたエピソードもたくさん紹介されていて、中には、パートナーが逮捕された際に警察から受けた差別の話など、生々しく胸の痛むものも。巻末の困難リストの充実ぶりは圧巻の一言で、LGBT当事者が置かれている現状を理解する上で重要な手引きになります。



Pride Forum Resource Center蔵書リスト▲

▽リソースセンターの入室ルールを決めました!

Pride Forum Resource Centerに入室する際のルールを日本語版、英語版で策定しました。

①個人的なジェンダー規範・セクシャリティ規範を他人に押し付け ないでください。

:ジェンダー・セクシュアルマイノリティについてのみならず、人種、民族、障害、出自、宗教などに基づくあらゆる差別に反対します。参加者の安全を守るため、差別行為やヘイトスピーチ、ハラスメントを発見した場合、退室を求めます。

②人の性別を見た目で判断しないようにしましょう。

:彼/彼女といった性別を特定する呼称はなるべく使わず、"さん"付けで呼び合うようにしましょう。名前がわからない場合は、「赤い服の人」など性別以外で人を表してみましょう。

③プライバシーの保護にご協力ください。

: さまざまな情報を組み合わせると、名前が出されていなくても、個人を特定できることがあります。センター内での不用意な写真・ビデオの撮影は禁止です。個人を特定できる情報をツイッターやブログなど多くの人の目に触れるところに書かないで下さい。なお、アウティングに繋がる危険があるため、センター内で見聞きした個人情報は外部に漏らさないようにお願いいたします。

1. DO NOT discriminate gender and sexual minorities based on your personal beliefs or opinions.

: We do not tolerate any form of violence against gender and sexual minorities. You will be asked to leave the center if we witness the discriminatory act or a hate speech towards other fellow visitors. We also expect you to respect all race, ethnicity, disability, nationality, religion at PFRC.

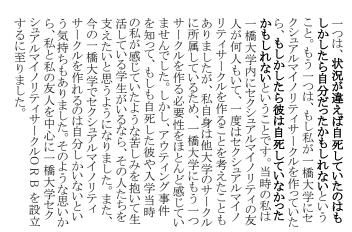
2. DO NOT judge one's gender by appearance

: We advise you avoid using third person in your speeches which identify one's gender. Instead try to use "san" or mention other features of the person such as clothes.

3. DO follow our privacy policy

: You are not allowed to take any photos or videos inside the facility. Please do not share information that could be used to target specific persons.





ました。一度だけ参加してそれ以降来な の団体を見つけ出し、活動に参加してくれ わず、インターネットで検索しなければ見かったため学内での広報活動はほとんど行 でした。クローズド(*2)の学生が多 ティ当事者が交流する場所を提供するこ かと思い詰める時もありました。しかし、 たのは結局自己満足でしかないんじゃない いった時は、サークルの運営の仕方が悪い がいないようなときもありました。そう ては一ヶ月近く私以外のランチ会参加者 くなった学生も何人かいたし、時期によっ 年半の間に合計三〇人弱もの人が私たち つからないような団体でした。しかし、三 チ会と半年に数回の飲み会が活動の中心 とを目的に活動しており、週に一度のラン んじゃないかと悩んだり、サークルを作つ 橋ORBは学内のセクシュアルマイノリ

> 出来ました。 立ち上げて良かったと心から思うことが う」と言ってもらえて、その時にサークルを ORBが存在してくれて良かった ありがと

と思い、「L GBTQ+ を始めるという話が出てきて驚きました。 がたいものだったことを覚えています。最よって救われてきた自分には少し受け入れ う新事業が発表され、新しい授業と施設 直前に突然「一橋プライドフォーラム」とい 思っていました。しかし、夏休みが終わる 動きが無かったため、計画はとん挫したと から」学生を支援するような印象が強く Networkに参加する。とを決めました。 今までの経験が後輩たちのためになれば 生生活も残り半年を切っており、自分の ついて非常に悩みました。ですが、私の学 かったため、その事業の手伝いをするかに 当時の私は修士論文の執筆作業中で忙し 初にその話を聞いてから半年ほどは何も て、当事者同士のピアサポート(*3)に には共感しましたが、大学や卒業生が「上 アルマイノリティ学生を支援するという点 ための施設を作ろうとしているという話を にセクシュアルマイノリティ学生を支援する 定してきた頃、一橋大学の卒業生を中心 八づてに聞きました。 当時の私はセクシュ 橋ORBの活動が三年目に入って安 Bridge

昨年サークルを卒業した人から「一橋

ます。 て安心できる場所になることを期待していて安心できる場所になることを期待してい

程卒業)(二〇二〇年三月一橋大学大学院修士課山内 浩平

(*1) 一橋アウティング事件

で広く報道されるようになった。 で広く報道されるようになった。 で広く報道されるようになった。 で広く報道されるようになった。 で広く報道されるようになった。 で広く報道されるようになった。 で広く報道されるようになった。

(*2) クローズド

する言葉。クローゼットと同じ。 や性同一性を公表していない状態を暗喩・・・L G B T Q の人々で自身の性的指向

(*3) ピアサポート

も類以の概念。 はいった意味で用いられる言葉。なお、相といった意味で用いられる言葉。なお、相といった意味で用いられる言葉。なお、相といった意味で用いられる言葉。なお、相い・・・「同じような立場の人によるサポート」

一橋大学大学院生 恒平さん (24

山内 浩平さん(23)

性的少数者らの交流センタ

修復した神社本殿の作品中心に

らLGBTQ+ Bridge Network代表本田恒平さ

もないし、友達の「ホモネタ」で傷つくこと り、また多くの学生がその授業を履修す もなくなるのではないかと思っていました。 頃のように異性が好きな振りをする必要 たのです。そのため、大学に入ったら高校の け入れてもらえるのではないかと考えてい シュアルマイノリティである自分の存在も受 豊富な一橋大学の学生たちであれば、セク ることも聞いていました。そのため、知識が 業がたくさん存在していることを知ってお はジェンダー・セクシュアリティに関する授 大きな期待を寄せていました。一橋大学で 入学前の私は、一橋大学の学生に対して

は参加させない」という話を冗談っぽく言 は「結婚しなかったらゼミのOB・OG会に 何度か聞きました。また、ゼミの教授から サークルやゼミの飲み会や合宿などでも いたのはこの合宿中だけではありません。 るまでの間に、一橋大学で「ホモネタ」を聞 なってしまいました。入学してから卒業す 語学クラスの人たちとは距離を置くように が起こってからは、授業が始まってからも れを笑って流すことが出来ず、その出来事 て笑っていた人たちも、別に強い悪意があっ います。その発言をした人も、それを聞い しい気持ちになったことをハッキリと覚えて をクラスメイトから聞いてしまい、とても悲 頃に聞いていたものと全く同じ「ホモネタ」 た。そしてその合宿の夜に、私は高校生の が引けたので、私も新歓合宿に参加しまし たが、入学してすぐに周囲から浮くのも気 で、私はあまり乗り気ではありませんでし い人たちと宿泊をしなければいけないの ているものです。入学してすぐに仲良くな 通じてクラスの交流を深めるために行われ となって行動し、アクティビティや宿泊を ます。それは、語学クラス四〇人が一単位 歓合宿」と呼ばれる一泊二日の旅行へ行き とに入学早々気づかされてしまいました。 たとは思いません。しかし、当時の私はそ しかし、それは全くの幻想だったという 橋大学の新入生は入学してすぐに「新

> メントに近い言動を受けたり、一橋大学生 そのように、日常生活の中で嘲笑やハラス のようになっていました(もちろん、中には では楽に単位をとれる授業として有名に 題に対する意識の低さを知るたびに、私の のジェンダー・セクシュアリティにまつわる問 真面目に受けている学生もいましたが)。 なっており、やる気のない学生のたまり場 めている機会になっていると思っていたジェン われたこともあります。さらに、知識を深 ダー・セクシュアリティの授業は、学生の間 橋大学に対する愛着がどんどんと薄れ

ていくのを感じました。

自分がゲイであるということをハッキリと で、私は自分の性のあり方を見つめ直し、 りました。そのような交流を通じていく中 と自分のことを偽らずに話せるようにな シュアリティの学生がいて、年の近い人たち く変わります。サークルには様々なセク ティサークルに加入することで状況が大き ませんでした。しかし、セクシュアルマイノリ 安心できる居場所を見つけることも出来 出会うことが出来ず、また、一橋大学内で 分と同じセクシュアルマイノリティの学生と り、社会に対して何らかのアクションを起こ 受け入れることが出来るようになっていっ 私は他大学にある有名な「セクシュアルマイ マイノリティの学生が集まって交流をした アルマイノリティサークルとは、セクシュアル すサークルのことです。それまでの私は、自 ノリティサークル」に加入します。セクシュ そのような環境から逃れるようにして、

時、私が思ったことは二つあります トニュースを見ました。そのニュースを見た 学アウティング事件(*1)に関するネッ を受け入れられるようになった頃、一橋大 てから一年が経ち、自分がゲイであること セクシュアルマイノリティサークルに加入し

とんど言ったことはないような、そんな状態で私は一橋大学に入学し

ていなくて、さらに、自分が同性に惹かれるということは他の人にほ

です。自分でもまだしつかりと自分の性のあり方について整理ができ となく同じ部活の異性のマネージャーが好きな気持ちもあったから 高校生の時に同性のクラスメイトのことが好きでしたが、しかしなん あるとハッキリ言いきれるほどの自信もありませんでした。なぜなら 言葉に、いつも一人で静かに傷ついていました。しかし、自分がゲイで ラスメイトや部活の同期に対して発せられる「お前ホモかよ」という

た。高校生の頃からその自覚はあって、同性同士でじゃれあっているク にはもう「自分が同性のことを好きになる」という自覚がありまし 私は二〇一五年春に一橋大学商学部へ入学しました。その頃の私 @LGBT_Bridge_Net https://twitter.com/LGBT_Bridge_Net

https://www.facebook.com/lgbtqbridgenetwork

学生サークルLGBTQ+ Bridge NetworkのメンバーがPride Forum Resource Centerの 運営に参加してくれていまず。ここではサークルの活動を併せてご報告いたします。

LGBTQ+ Bridge Networkは、Pride Forum Resource Centerの運営、ならび に、調査や啓発活動、イベントの実施を目 的として発足した学生団体です。 現在は、10数名ほどのメンバーが在籍して います。週に1度全体ミーティングを行いな がら、校内をより良い環境にするために 様々な活動を展開しています。

▽サークル登録

正式にサークル登録を行いました。サー クルには「ジェンダー/セクシュアリティと ライフデザイン(プライドブリッジ寄附講 義)」の受講者が多く参加しています。参 加メンバーの多くはニュースで取り上げら れているようなLGBTQ差別に関して興味の ある学生や、一橋アウティング事件に関し て興味関心のある学生など、非常に意識の 高い学生が参加しています。参加学生は現 在、学部生から修士課程生まで所属してい

一橋大学におけるLGBTQサークルはこれま でORB(オーブ)が代表的な組織でした が、ORBもまた結成メンバーの卒業を機 に、2020年3月末での解散を決定しまし

た。 LGBTQ+ Bridge Networkの活動は一橋大 学内のLGBTQ学生が困難を解決できるよう な取り組みの実施のほか、困難を抱える前に大学自体をLGBTQフレンドリーなものに することがその目的となります。LGB学生 であれば性的指向に関するからかいや差別 がまだまだ多くあり、トランスジェンダー 学生の場合トイレの利用や学部1年生の際 に行われる合宿イベント、身体検査、寮へ の入居など様々なシーンで困難を抱えてい ます。そういった大学の風土や制度を変え るために啓発活動を行っていく予定です。 ジェンダー研究が盛んな大学としてある

べき姿勢を見つめ直していければと考えて います。





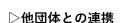
Sub Delegate



西良 朋也

一橋大学大学院 社会学研究科修士課程] 年

弊団体がこうして初回の活動報告を行う。また、ないまでではしく思いまな活動の場かなび様々な形での支援をいたことに感謝を申したことに感謝を申したことに感謝を申したことに感謝を申した正義にはまでダイバーシティ・社会正の場合とではなど、学内での様とないでありましたのような経験を活流を深めりましたらいが現りないと考えてもいます。 対したいと考えてもいます。 対したいと考えて、今後、弊可で活とにないます。 対したいと考えているというではます。 ができましたら幸甚に存じます。 弊団体がこうして初回の活動報告を行う



2019年度より2つの一橋大学のサーク ルと連携を開始しました。

1団体目は学内サークル「チームえん のした」です。古本リユース事業などを 通じて、「本と人をつなぐ」ことを目的 に活動されています。連携内容として は、集まった古本の中から、ジェン ダー・セクシュアリティ関連の本をPride Forum Resource Centerにご提供いただ くことになっています。センター内の資 料のさらなる充実につなげさせていただ いています。

2団体目は学内サークル「Bridge all」です。性暴力問題に取り組む団体で す。Bridge for allとは、学内のジェン ダー・セクシュアリティ実態調査を連携 して行う予定です。2017年に社会学研究 科が実施した差別・ハラスメントの学内 実態調査(「2017年度-橋大学キャンパ ス内差別実態調査報告書」)を参考に、 よりジェンダー・セクシュアリティに焦 点を当てた内容のものを目指していま す。また、相互に運営実務へ参加するこ とを検討しています。

▽プロジェクトチーム

LGBTQ+ Bridge Networkには、イベント・研修・リソースの3つのプロジェクトチームがあります。メンバーはいずれかに所属し、それぞれの分野に応じた活動を進めています。

研修チームは、ジェンダー・セクシュアリティについてのサークル内部研修を担うとともに、学術的資料の蓄積に尽力しています。初学者に向けた基礎的なものから、深く知りたい人向けの発展的なものまで、幅広い知の伝達を目指しています。Pride Forum の事

業とはなりますが、3月にはサークルメンバーに向けた内部研修を実施しました。意見の交換などを交えながら基礎的な知識の共有・確認ができました。作成した研修した資料をのものはもちろん、参考にした資料も今後に活かされます。現在は、ストレートの学生がLGBT学生にカミングアウトされた際の心構えに関してリサーチしています。

リソースチームは、学内及び学 外における実態や、支援体制の調 査及び情報提供を行っています。 実際にどのような困難や不安を抱 えているのかを考え、その解消に 役立てるような情報を提供するこ とが目標です。昨年度は、NPO団 体や自治体が運営している相談事 業及びコミュニティスペースにつ いて調査しました。得られた情報 はまとめて、ホームページとセン ター内で公開しています。現在 は、学内においてジェンダー・セ クシシュアリティについてのハラ スメントを受けた際、どのような 制度や指針が設けられているのか について調査中です。

Delegate



本田 恒平

一橋大学大学院 経済学研究科修士課程2年

参加してくれている優秀な学生メンバーと、聡明な指導教官・OGOBの方々と共に切磋琢磨し、LGBTQ学生を含めた全学生にとって過ごしやすい大学づくりを目指していきます。







▷新聞掲載

Pride Forum Resource Centerの 設置とその運営に携わる学生メン バーの想いについて、2社の新聞に 取り上げていただきました。

まずは、「東京新聞」2020年1月6日掲載分です。一橋大学アウティング事件を受けてセンターが設置されたこと、その運営を担う学生メンバーの想いが紹介されています。インタビューを受けたのは、本田恒平さんと山内浩平

(2020年3月卒業)さんです。 本田さんは、自身が活動に取り 組むようになったきっかけに触れ、「人権は万人が保障されてかる。 ラなくても、みんない追対としまなくてはいけなり。 ではないことを背負い込まずは一橋大に誰かにはまず。 きる環境をつくっていきたい」 と、これからの熱意をあらわにしました。

山内さんは、大学での生活を振り返りながら、学内において理解はまだ広がっていないと強調します。また、自身が在学中に設立した当事者サークル「ORB(オーブ)」の解散後、当事者やアライの人が支え合える場として、当センターが機能していくことへの期待を語りました。

次に、日曜版「しんぶん赤旗」2020年2月23日掲載分です。こちらの記事でも、センター開設がきっかけとなったアウティン体について紹介しています。山内さんは、事件を知ったとを思いをの学生メンバーの開設や今後の学生メンバーを表しているともに、取り組みになると力説しました。

⊳今後の予定

秋学期から、La Mosaiqueという企画が始まります。月に1度、トークテーマを決め、それについて参加者で話し合います。議論を通じて社会の多様性を考える機会を設けることが狙いです。まずはサークルメンバー間で始まりますが、ゆくゆくは外部の人の参加できるようにしていきます。

10月には学内でLGBTQ&Ally Weekを実施したいと考えています。一橋の学生や教職員に向け、LGBTQやAllyについて広く知ってもらうことが目的です。イベントの詳細は今後随時公開していく予定です。

今後ともLGBTQ+ Bridge Networkの活躍にぜひご期待くだ さい。

一橋プライドフォーラム活動報告書 Vol. |

二〇二〇年六月二十七日

(CGrass)) 発行 一橋大学プライドフォーラム(一橋大学社会学研

編集 一橋大学学生サークル LGBTQ+ Bridge Network

prideforum_cgrass@soc.hit-u.ac.jp
https://hitupride.wixsite.com/lgbtqbridgenet